

# 届け 世界の果てまでも

令和3年9月22日

No. 32

文責 校長 飯久保一男

## 三行詩

ときには、気楽に読める通信をお届けします。毎年、文部科学省とPTA全国協議会の共催で行われている「楽しい子育て全国キャンペーン」～家庭で話そう！我が家のルール・家族のきずな・命の大切さ～三行詩の優秀作品を紹介します。

### 【小学生の部】

「誕生日に何ほしい？」ってお母さんに聞いてみたら、  
「あんたらおったら何もいらん」って言われた。  
なんか、うれしくなった。

夏まつり、パパのおさいふでお買い物  
中には私の昔の手紙  
おさいふわすれてよかったな

「あなたたちがいればそれで十分」というお母さんの一言、お父さんの財布に入っていた幼いころの自分の手紙…、親にとって子どもは、タカラモノです。



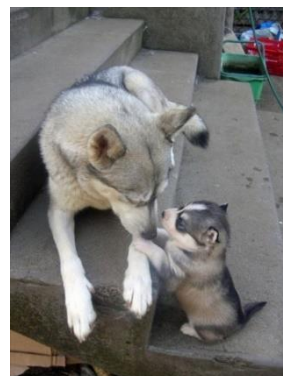
### 【一般の部】

おい娘！  
母さんへの言い訳で  
「だってお父さんの子なんだもん」っていうんじゃない！

ウチの息子どもが子どものころ、やんちゃぶりを見た妻は「私が子どものころはこんな子じゃなかった…」とよく言っていました。

お風呂で校歌  
孫とおじいちゃん  
大熱唱

息子たちが小学生のとき一緒に風呂に入って、小笠原小学校の校歌、1番「山は招くよ～」2番「寄せる文化の～」そして、3番「響け歌声高らかに“届け世界の果てまでも”“愛する故郷小笠原”～」よく歌っていました。



## 【中学生の部】

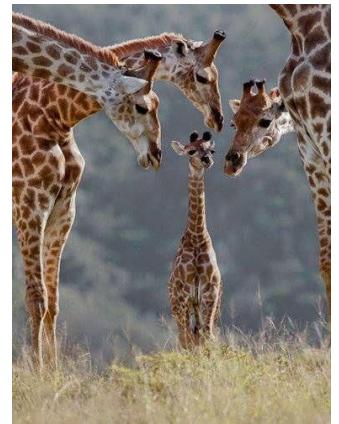
いつも生意気な弟が、ひらがな覚えたとしまんして、覚えたてのきったない字の手紙をくれた。  
見ると「いつもありがとう」の一言。  
ありきたりだけどなぜか感動。

ケンカばかりしている兄弟姉妹でも、心の中ではお互いに感謝しているものです。

母にきく 「父さん好きなん」「うん好きや」  
父にきく 「母さん好きなん」「好きやで」  
2人が言う 「でも一番はお前やで」

夫婦の愛と子どもへの愛は違います。子どもが一番…、全ての親の思いです。

母の背においついていろんなものが見えてきた  
増えた白髪とたくさんの心配と  
ありがとうの気持ち



以前も書きましたが、いろんな面で、子どもはやがては親に追いつき、追い越します。子どもが成長すればするほど、親は歳をとります。

## 【おまけ】です

娘「パパ！ 今日ね！ あのね！」  
父「うん」  
娘「大きな絵を描いたんだよ！」  
父「すごいねえ」  
娘「パパは何してた？」  
父「仕事だよ」  
娘「あとブランコにも乗ったの！」  
父「よかったねえ」  
娘「パパは何してた？」  
父「仕事だよ」  
娘「今日は幼稚園でお菓子も食べたんだよ！ パパは？」  
父「仕事だよ」

